

基幹教育センターニュース

No. 7 2018年7月

基礎教育の振興とそれを支える人材

基幹教育センター長 巨海玄道



「みんなの大学情報」によると本学の講義・授業に対する評価は私立大学 568 校中、547 位となっている。実に下から数えて、21 番目という最低ランクに位置付けられている。

先日群馬県前橋にある共愛学園前橋国際大学を 2 人の事務職員と一緒に訪問する機会があった。この大学は定員割れが続き、F ランク寸前まで落ち込んだが教職員の必死の努力で今や全国 5 位にランクされるまで奇跡的に成長した大学である。我々はそこでどのような初年次教育がなされているかが最大の関心事であった。学長が言うには「入試のレベルを落とさなかった。教員採用時にそれなりのハイスペック人材を採用した」という簡単なものであった。教員の意識の高さは例えば学長がアクティブラーニングを全教員に推奨しようとしたところ、すでに 80%の教員は自主的に実施していたと言う事にも表れている。また教員の仕事として「教育：研究：運営＋地域連携＝50:25:25」であると言う。この割合は金沢工大などと同じである。翻って本学はどうであろうか？まず間違いないのは教育（学部教育）の 50 という割合は教職員の意識の中にはないと言う事であろう。またもう一つ大事なことは本学が全入大学であると言う事である。つまり前橋国際大学と比べて基礎学力に劣る学生が入ってきていると言う事である。このため本学はいろんな手立てを講じて学修支援をしなければならないことになる。ここに大きく本センターの存在意義が出てくるのである。3年目を迎えて本学の基礎学力支援がいかに重要か・・・前橋国際大学との比較で思い知らされた気がした。更に今後本学のあるべき姿が何となく見えてきたような気がした。



基幹教育センターのレイアウトが変わりました！

(100号館2階)

カウンターは
入り口正面に



個人学習ブース
を移動・増設



共同学習
スペースも充実



指導室でも随時
教えています！



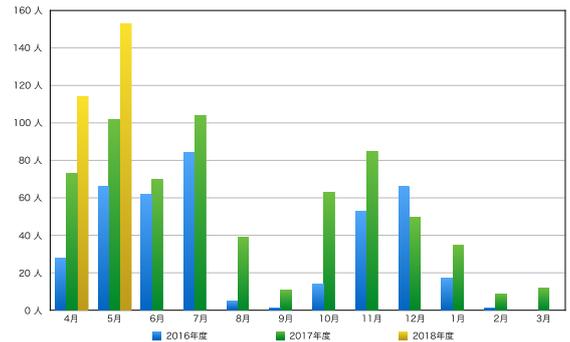


基幹教育センター利用状況 ～年度別比較～

基幹教育センター 助教 酒見龍裕

基幹教育センターが発足し3年目、専属教職員2名が配置され2年目を迎えた平成30年度。ここでは本センターの活動を報告する。基幹教育センターとは、主に数学・物理の初年次教育の役割を担うセンターで、近年、このような役割を持つ組織が多くの大学に導入されている。これは、いわゆる2018年問題という18歳人口の減少により、学生の質が相対的に低下することを防ぐべく、全国の大学が力を入れている教育である。

本学のセンターもまた、力を入れて取り組んでおり、試行錯誤しながら学生の学修活動のサポートに力を入れてきた。発足1年目は、利用者が多くて80名/月程度となっていたが、専属の教職員が配置された2年目には、100名/月を超えてきた。また指導内容も基本的な数学・物理の内容から、SPI対策や教員採用試験対策といった内容も含むようになってきた。3年目になるとその勢いは加速し、月に150名を超える学生を対応するなど、いかに学生が学修の場を必要し、その場所提供されてこなかったかを明示している。来年度は、本センター発足4年目となり、センター発足時の学生が卒業を迎えるという、一つの大きな区切りとなる。本センターがしっかりと役割を全うできているか、また課題は何か、学生にとって一番良い形は何か、今まで以上に見えてくるだろう。



入学前教育 (eラーニング導入) の実施について

本学では、平成30年度入学者よりeラーニングによる入学前教育を実施しています。入学前教育は、高校から大学への接続を円滑に進めるために、新人研修の意味合いを持っており、学力の向上よりも学習習慣の継続と意欲の維持に焦点が当てられています。この目的のためには学生に対する個別の対応が最善と考えられますが、実際上、入学前であるという状況と大学側の負担するコストの面から、実現するのは困難です。これに対して、場所を選ばないeラーニングシステムによる入学前教育は管理と運用の面で多くのメリットがあります。課題の遂行状況をリアルタイムで知ることが出来るので、入学前から新入生の学力や意欲などを計ることが可能となり、大学側が十分な受け入れ態勢を整えることが出来るのです。本学では、以上のような方向性の下に今後もeラーニング入学前教育システムの開発に力を入れていきたいと考えています。

FD講演会 (H30.7.4)

7月4日、久留米工業高等専門学校の松田康雄教授をお招きし、「久留米の和算」を演題に約1時間講演をして頂きました。続いて、本学教育創造工学科の松浦望准教授が「曲線と曲面の差分幾何」を演題に講演いたしました。



終了後の質疑応答では工学への応用に関する活発な議論が行われ非常に充実した講演会となりました。

基幹教育センター年報第2号

H29年度の活動報告をかね、年報第2号を発行いたしました。学外の教育関係者の方々にお配りしたほか、本学教職員の皆様にも広く配布させて頂きました。センター内にも保管してありますので、ぜひ手にとってご覧ください。

